

第1回 公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会 議事録

開催日時	平成29年11月21日（火）18時00分～20時30分	
開催場所	役場2階第1会議室	
出席者	委員	出席4名 小峰委員、山崎委員、桐生委員、三宅委員
	その他	
	二宮町	教育部長、政策総務部政策担当参事、政策総務部財務課2名
	事務局	政策総務部企画政策課2名
会議次第	<p>1. 開 会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議 題</p> <p>（1）町民アンケートの調査結果報告について</p> <p>（2）町民ワークショップの開催報告について</p> <p>（3）公共施設再配置・町有地有効活用実施計画に係る個別施設実施計画について</p> <p>（4）マーケットサウンディングの実施について</p> <p>（5）その他</p> <p>4. 閉 会</p>	

■議事録

1. 開 会

●事務局より報告事項

- ・議会より選出されていた添田委員より、委員を辞退するとの申し出があった。添田委員の辞退に伴い、議会に対して新たな委員の選出をお願いしたが、議会からの委員の選出はされなかったため、今回からは5名の委員により委員会を進める。

2. 会長あいさつ

3. 議 題 (○委員意見 ●町意見等)

(1) 町民アンケートの調査結果報告について

●事務局による資料説明

- ・今回提出した資料は調査結果の概要をまとめたものだが、明日（平成29年11月22日）には、町ホームページに調査結果を掲載する予定。
- ・アンケートの調査結果は各課にも提供し、情報共有している。

○問4では防災コミュニティセンターは8%が不要と回答しているが、町民ワークショップでは削減する意見は少なかったように思う。施設の再編時には防災機能についても考慮すべきではないか。

○防災コミュニティセンターは地域の集会場として使用しているのか。

●現状では貸館機能としている。町民ワークショップで参加者より質問があった際にも同様に回答している。

○防災コミュニティセンターを貸館機能として複合化の対象とする意識がアンケートに見られない。

●アンケートの実施時期に再配置の取り組みについて周知が進んでいなかったことが考えられる。

○アンケートは町の現状についての周知という意味では有効だったと思うが、調査結果はどのように計画に反映しているのか。例えば、ふたみ記念館については廃止しても良いという意見が最も多いが、計画では維持することになっている。

●今後役場庁舎の複合化等について検討を行う際には、アンケートでいただいた意見を参考にしていく。

●ふたみ記念館については寄付を受けた経緯もあり、廃止とすることは困難である。来館者の増加に向けて、運営の手法等を検討していく。また、役場庁舎については、複合化もすぐに実施することは困難であるため、将来的なサービスの減少や、他の施設で廃止するものがあつた場合に複合化を検討していく。

●アンケートの目的には、昨年度に策定した実施計画策定方針で示した内容について町民がどのように考えているかを知りたかつたということもある。

- 問 7 でワークショップには参加しないという人が多数を占めているという結果は、町民が子育て環境について冷淡であるというようにも捉えられる。
- 今回のアンケートは統計上有意となる回答数だが、アンケートをもってすべてを決める訳ではない。問 7 についてもこういう方向でやっていくというのを出している。総論では賛成でも、当事者となる個別の議論になると厳しい話も出てくると想像している。そういう中でも大まかな意向は見えているので、結果を踏まえた形で計画を作成していく。
- 町として子育て関連施策に力を入れているのに、子育て環境に対しての町民意識が希薄と覚えてしまうのは残念である。
- 問 16 で小中学校体育館を不満に思う回答が多いのはなぜか。
- 老朽化等の課題があるのではないかと。意見としては「狭い」、「予約がしづらい」等が挙がっている。
- 学校体育施設の維持管理は学校が行っているのか。
- 学校が行っている。しかし、施設の一般開放についての事務は教育委員会が行っているため、学校に負担はかかっている。

(2) 町民ワークショップの開催報告について

- 事務局による資料説明
 - ・第 2 回検討委員会では、東京大学果樹園跡地の活用についての検討の進め方を議論していただく予定。その際には、テーマ 1 のワークショップで出た意見を参考にさせていただければと考えている。
 - ・テーマ 2 の結果も施設の再配置の検討を行う上で参考にさせていただきたい。ワークショップで作成したランドデザイン案については、参考として実施計画に記載していく。
- ワークショップ開始時には進行が上手くいくか不安だったが、結果的に参加者からはかなり大胆な提案をもらえたと思う。また、比較的短期間であったにもかかわらず、参加者の考えが発展していく様子が伺えた。再配置の検討結果を公開したときのリアクションが楽しみである。今回のワークショップの実施は成功と言えるのではないかと。
- ワークショップの参加者の中では、古くから町に住んでいる人は少なく、町外から移住して来た人が多かったように思う。町の外から来た人の方が町の魅力について良くわかっているのかもしれないという印象を受けた。
- テーマ 1 の参加者からは、今後東京大学果樹園跡地の活用の検討がどのように進んでいくのか不安という声が上がっている。これから先はどのように事業を展開していくのか。
- 東京大学果樹園跡地は、A 地区と B 地区を平成 30 年度末まで暫定利用として貸し出しているため、それまでの間に町で今後の活用について検討を行っていく。その際には

今回のワークショップ参加者の協力を得ることも考えており、そのことについては第5回（テーマ1）の参加者には伝えている。

- 今回のワークショップのように、町民が意見を言える場は今後も設けられるのか。
- 今後は広く町民の意見を聞くという段階ではなくなると考えている。これからは実際に活動しながら、町と一緒に活用方法を考えていく（協働）というような動きをしていければと考えている。
- 協働というのは、町が主導するのか。
- 町が主導するのではなく、利用者が自分たちで活用を行い、それを町が支援していくというようなイメージで考えている。
- その場合の自分たちとは誰のことを指しているのか。
- 今回のワークショップで意見をいただいた方々を中心に検討してもらい、出来るところから少しずつ活用を始めていくことを考えている。来年度は町でワークショップを開催し、その中で事業主体のようなものを形成していきたい。
- 東京大学果樹園跡地については、町有地として次回のワーキングや検討委員会で検討していただく予定である。
- 将来的な施設の再配置用地として活用するといった全体的な話と、当面の活用方法の間で調整が必要と思われる。
- ワークショップでは学生宿舎以外の建物をどうするといった議論はあまりなかったように思う。上下水道や道路等、今あるものの中で何ができるかという話が多かった。また、今ある自然をどのように活かしていくかという話もされていた。
- 開催報告の図を見ると、イメージが都市公園的なものになっているように思える。
- 掲載している図面はあくまで活用のイメージである。駐車場等は作ることにしているが、その他で樹木を伐採するといった話は出ていない。また、現段階では実際に事業実施する際に想定される各種制約等については考慮されていない。
- 別に樹木を伐採するなということではない。町には日常的に屋外教育や宿泊等ができる場所がないので、そういう場所があってもいいのではないか。また、子育て機能を中心としたカフェ機能や日常的に滞在できる機能もあっていいと思う。

（3）公共施設再配置・町有地有効活用実施計画に係る個別施設実施計画について

- 事務局による資料説明
- 役場庁舎の規模は現状維持とするのか。それとも適正規模とするのか。
- 今年度に方向性が決定するため、計画では役場庁舎の適正規模は考慮していない。
- 現時点では新庁舎とするのか、今ある既存庁舎を改修するのかの検討を行っているため、適正規模を検討する段階にはない。
- 教育事務所まで含めて職員は何人ぐらいいるのか。狭隘化していないのか。
- 正直に言って、狭隘化しているという認識はもっている。

- 全国の自治体では人口減少予測から職員の適正人数を出して役場庁舎の適正規模を試算している。そのため、役場庁舎の検討にあたっては前倒しで適正規模の試算を行うべきである。適正規模の検討は、庁舎を建替えない場合にも必要である。
- 町民サービスプラザと百合が丘子育てサロンの統合が目を引くが、なぜこの 2 施設なのか。
- 町民サービスプラザは隣接する百合が丘子育てサロンの一画で証明書を発行する等でもサービスが維持できるのではという考えから記載しているが、百合が丘子育てサロン以外の他施設への機能移転ももちろん考えられる。
- 町民温水プールはアンケートでは残してほしいという意見が多いが、廃止を含めた将来的な方向性の検討を行うとなっている。短期で行う大規模修繕は、廃止する場合には不要ではないか。
- 短期のうちに将来的な方向性を検討し、大規模修繕を行うかどうか判断する。短期での廃止はないが、中期の早い段階で廃止とする場合は大規模修繕は行わずに維持管理していく。長期にわたって使用するとした場合は、大規模修繕を実施する。
- 学校のあり方検討は平成 31 年度に結論が出るということだが、検討は教育委員会の内部だけで行っているのか。また、学校施設の複合化も検討しているのか。
- 学校施設の複合化は現状では検討していない。検討は教育委員会の中で行っており、教育委員や学校長を含めて検討している。検討に地域の方を入れるのはまだ先のことと考えている。
- 学校のあり方の検討については、平成 30 年度の途中まで教育委員会と学校側で協議を行い、平成 30 年度の途中から学識経験者や町民を含めた外部組織による検討を行っていく。その後、平成 31 年度末までに結論を出していくというのが現在のスケジュールである。
- 学校教育については、事故等のリスクを押さえようとして教育部門のみで検討が行われるケースが多い。地域全体で子どもを見ていこうという流れがあるので、そういう流れの中で学校のあり方の検討を行ってほしい。
- 文科省から学校施設の複合化について平成の始め頃から提言が出されている中で、複合化の検討がされていないというのはいかなるものか。
- 学校教育のより良いあり方について、まずは 2 年間で教育委員会が検討を行い、その検討した結果を町で受けて複合化も含めた検討を行う。教育委員会から出された検討結果の通りに施設の再配置が進むということではない。
- 学校施設の他施設との複合化についての検討はいつ行うのか。スケジュールでは平成 30～31 年度となっているが。
- 平成 31 年度末までに学校の再配置を含めた検討を教育委員会で行う。その後でその検討結果をどのように町側で受けるかということになる。6 ページの書き方はわかりにくいので、書き方を考えたいと思う。

- 学校教育についての検討を行った後で社会教育との複合化を考えるというやり方で良いのか。
- 学校が地域に出ていくという検討が教育委員会ではすでに始まっていて、コミュニティー・スクールを小学校に導入していく。一色小学校では、学校内のスペースを地域の方が利用するといった取り組みも進んでおり、そういう部分では複合化の検討はなされていると言える。
- 当初から社会教育との複合化を検討していないと、後から上手くいなくなることも考えられる。教育委員会には複合化のプロセスを検討してもらいたい。
- 計画における削減面積は目標値を超えているのか。
- 短期、中期ともに超えている。
- 消防の分団数は減るのか。
- 施設の統廃合は検討するが、分団の組織はそのまま残していく。
- 多機能化や複合化を進めたとしても町民サービスは維持してほしいということはずっと言っているが、施設ごとに考えられる多機能化や複合化の内容をもっと計画に盛り込んでもらいたい。早い時期に多機能化や複合化を検討しておかないと、改修費用等が無駄になることも考えられる。せつかく実施したのだから、アンケートとワークショップの結果も計画に反映してもらいたい。また、教育委員会での学校施設の複合化についての検討もなるべく早い段階で行うべき。
- 計画には、廃止とする学校があった場合に、町立体育館として学校体育館をリノベーションすること等を記載している。
- 学校施設を廃止としない場合の空きスペースでの複合化は検討しているのか。
- 現状では検討していない。
- 検討する余地はないのか。
- 現在はどこの学校を統廃合するかということに集中している。何の施設を入れるかまで含めると話が広がり過ぎてしまう。そこまでの検討は現段階では難しい。
- 実施計画は策定までに期間がないが、なるべく多くの町民の意見を取り入れてもらいたい。そのためにはアンケート等を見直して、細かい文言についてまで考えた上で計画を策定してもらいたい。
- 短期の10年間でハード（建物）について実施できることは限られている。中長期では理念的な部分も形に示していく必要がある。
- 町には財源がないため、無駄な改修等をしないように、先々を考えた実施計画とする必要がある。

(4) マーケットサウンディングの実施について

- 事務局による資料説明
 - ・ 国立小児病院跡地について、実施計画策定方針では国直轄事業の工事で使用すると

していたが、今年度に入って使わないことになった。そのため、跡地利用について検討を行うこととした。

- ・国立小児病院跡地については、公募のため町ホームページにてサウンディングの募集を行っており、本日までに1社から現地説明会への参加申し込みがあった。
- ・スポーツ施設のヒアリングについては、昨年度実施したサウンディングの対象企業や、近隣の企業等に声をかけていく予定。

○町民温水プールは収支で見れば大きな赤字であり、それ以外の施設でも同様に赤字となっている。

○施設に民間活力が導入される可能性はあるのか。

●売却や貸付までを含めて民間事業者に意見を聞いていく。民間事業者の方で施設の改修を行うことも考えられる。

○自主事業は町が行うのか。

●町ではなく民間事業者が行う。

○民間事業者が行う場合、現在の健康づくり事業を続けていくかどうかともヒアリングするのか。

●健康づくり事業の実施についても聞いていく。

○自主事業の場合は目玉になるような事業が必要。体調管理までを含めた総合的なサービスが提供できると収益も上がっていくのではないか。

(5) その他

○特になし。

●次回のワーキングは平成29年11月28日(火)18:00～役場庁舎第1会議室で開催する。

4. 閉 会

以上